

鬼北俳句会

駅前看板春を告げる旅
 スカーフのさらり解けし四温かな
 組み上げて火のかけのぼるどんだかな
 雪の夜静寂に発条時計かな
 雪景色湯気のただよふ湖面かな
 雪景色遠きも近きも日に消へし
 水仙の根締正しく老舗かな
 床の間の布袋の糸目春立ちぬ
 追ひかけてくる老いの風梅二月
 追儼豆まきて独りの夜となりぬ
 冬天に石垣仰ぐ岡城趾
 絵馬一つ神にあずけし寒詣
 片思ひ口では言えず星冴ゆる
 町名の変る古里初便り
 戦ひは机上にありて大試験

大川 眺春
 毛利 知子
 善家 信景
 善家 三代
 善家 章
 今西 英子
 武田 幸子
 二宮千代子
 二宮 友子
 高田トヨ子
 松岡 寛孝
 新倉地映子
 芝 光恭
 白敷フサ子
 上甲 斗志

きほく川柳会

さて今日は何日だっけ惚けはじめ
 日が暮れると猪口かんびんが落ち着かぬ
 人間も神も仏も餅が好き
 山菜の料理で招く山の宿
 一行の中に隠している本音
 新米のミス先輩も踏んだ道
 こっそりとのぞいてみたい穴がある
 雪の日は炬燵であくび痴呆けはじめ
 四面楚歌途方に暮れる神だのみ
 知らん顔こっそり食べるひがし芋
 友が来た飲みに来ました泣きに来た
 真心を込めた料理は生きている
 踏んばって生きた証の足の裏
 猫が好き中途半端の男より
 七十年も生きて大人になり切れぬ
 とつぷりと暮れて茶の間にいい笑顔

宇都宮七郎
 宇都宮 孝
 大沢和希子
 大野モモエ
 大本ミヤ子
 栗木 一郎
 小越 安隆
 芝 智恵子
 清家 厚美
 武田 浅美
 若宮 賢敬
 畠山 千歳
 兵頭 紀子
 水野 貞子
 都 瞳
 高田トヨ子



大きくなったら 泉小学校

